

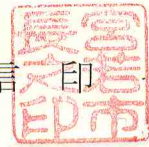


宮建第 1230 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

宮若市長 有吉 哲信 印



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のあった標記の
件について、別紙のとおり提出します。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

様式 ①

福岡県宮若市

生活形態が都市集中型になり、全国的に少子高齢化が進むなかで、地方部においては人口が減少し生活環境は著しく変化しており、地方と都市との格差解消や、物流の効率化、日常生活の基盤となる生活道路の整備充実を図るため、直接住民と接する地方自治体が主体性をもって、それぞれの地域が必要とする道路整備を、より積極的に促進していくことが求められている。

国は、こうした地方における道路整備の必要性を確認するとともに、道路整備によってもたらされる地域の安全・安心の確保や、地域活性化の創出など地方が求める、地域の実情を踏まえた中長期期的な道路整備計画を策定し、地方と一体となった道路整備を計画的に推進されるよう要望する。

さらに、道路の維持管理においては、今後、老朽化した橋梁・舗装等が急増し維持修繕費の増大が見込まれる。

このようなか、現行の道路特定財源の暫定税率を維持する等の措置が講じられない場合、地方の道路整備は深刻な停滞が余儀なくされることになり、極めて厳しい状況にある地方公共団体の財政運営に重大な影響を与える。

よって、道路特定財源については、地方の貴重な財源となっている現状に鑑み、暫定税率の適用期限を迎える平成20年度以降も、現行の税率水準の確保並びに、地方道路整備の推進に必要な地方道路整備臨時交付金事業の継続を強く要望する。

また、併せて本市の実状等を踏まえ下記事項を要望する

- ・ 供用中の道路の維持・補修事業及び、地域住民が求める生活道路整備の全てを市単独費で実施していることから、採択条件が緩和された国庫補助事業の導入
- ・ 高齢者や通学児童など交通弱者の交通手段を確保するために、既に公的資金を導入してバスなどの公共交通を維持している多くの自治体がある。本市も同様であり、将来にわたる代替運行等の交通体系のありかたが実施できる、新たな国庫補助事業の導入
- ・ トヨタ自動車九州㈱及び自動車関連立地企業の経済活動の活性化を図るため、本市北側の国道3号線からトヨタ自動車九州㈱を軸とする宮田工業団地を経て国道200号線に至る新規国道建設構想の立案
- ・ 道路は国・県・市町村道路で骨格形成されており、市町村が国・県道と同等の道路規格で整備する場合における国・県で行う代行事業の導入

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

宮若市は、平成 18 年 2 月 11 日に旧宮田町と旧若宮町が合併し、宮若市として誕生しました。

宮若市まちづくり計画(新市建設計画)において旧宮田町を中心とした地区を中心拠点、旧若宮町中心地区を地区拠点として位置づける。

中心拠点は市役所、文化施設、警察、消防署、金融機関、商業施設などの多様な施設が立地、現在商業施設が衰退してきていることや、道路整備の遅れから、市民が気軽に安全に集まる中心的な市街地になっていない状況である。

地区拠点は、旧若宮町の中心地区で若宮総合支所を初めとした公共施設の老朽化が激しく道路整備も遅れています。

まちの骨格となる広域的な幹線道路は、主要地方道路 9 路線、一般県道 6 路線、広域産業循環道路が 1 路線で九州自動車道が通過し、市内に若宮 IC が設置されており、市内に幹線道路を補い、市民の日常生活を支える市道は 1303 路線となっております。

また、本市笠松地区宮田団地にトヨタ自動車九州(株)が立地し、年間 40 万台以上の自動車を生産しており、円滑な物流手段の確保等を含む交通ネットワークの整備が求められているが、本市内における広域的な幹線道路の整備が遅れ、トヨタ自動車関連企業の立地が一層進んだことなどを要因に交通量が増加しており、渋滞の解消や市民の安全通行確保の整備が遅れている。

○課題

中心拠点では、本市に不足している施設を補いながら、多様な機能の集積と、道路や環境の整備、改善を図ることにより、宮若市にふさわしい市街地の形成を図ることが求められている。

地区拠点では、老朽化した公共施設を整理統合し、行政サービス機能を有した新たな協同のまちづくりを図るとともに、歩道の整備などを図ることにより、誰もが気軽に立ち寄れる市街地の形成を図ることが求められている。

市内各所で渋滞が発生していることから、宮田工業団地を軸とした広域的な幹線道路網の早急な整備また、幹線市道の歩道整備率が 37.3%であり、道路整備に併せた計画的な歩道確保を求められている。

また、住宅市街地や農村集落などにおける生活道路についても、歩行者の安全通行確保と生活環境の向上のための道路整備が求められている。

今後の道路行政についての意見・提案

②-2 地域の目指すべき将来像

様式 ③

福岡県宮若市

新たな時代の流れの中で誕生した宮若市は、地方分権や住民のニーズの多様化、財政状況の硬直化などの様々な課題に対応するため、市民と行政が協働し、安全・安心で魅力あるまちづくりに取り組んでいくことが求められています。

このため、宮若市が有している自然や歴史、文化、福岡・北九州両政令指定都市の中間に位置する恵まれた地理的条件など、地域の魅力を生かし、まちに活力を与える商工業、食環境の創出の土台となる農業、多くの人がふれあえる観光が共存するバランスのとれたまちづくりに取り組んでいきます。そして、定住と交流の促進や財政基盤の確立を図り、自主自立した自治体の形成を目指します。

さらに、市民、企業、行政などの多様な主体による協働のまちづくりに取り組み、市民はもろろのこと、立地企業も私たちのまちに愛着と誇りを抱くような新たなふるさと環境の創造を目指し、本市のまちの将来像である「ひと・みどり・産業が輝く 新たなふるさと」の実現を目指すため、多様な産業の集積による自立したまち、農業・観光による人と自然がふれあうまち、人が健やかに育つ心安らぐまち、市民一人ひとりの思いがつどうまち、市民と協働でつくるまちづくりの基本目標を定める。

※本市が今後実施すべき道路施策

- ・市内を縦横に結ぶ幹線道路網の整備や、本市の基幹産業であるトヨタ自動車九州㈱関連及び誘致企業とのアクセス道路の整備促進。
- ・市道の維持、補修費の抑制と道路の延命化に努める。
- ・市道の交通事故防止と交通円滑化の推進。
- ・市道沿線の環境対策整備促進。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・道路交通網の整備促進	主要地方道飯塚・福岡線は福岡県飯塚市を起点に宮若市を経て福津市に至る延長30kmの路線で若宮ICにアクセスする重要路線であります。筑豊地域と玄海・宗像地域の産業、経済発展のためトヨタ自動車九州(株)等の自動車関連企業を誘致に成功したが、交通体系整備の遅れは否定できず既に進出している企業のアクセスや新たな企業誘致の妨げになっている	若宮ICと沿線都市間を結び大型車両等利用が可能となり、工業製品や農作物の出荷増大につながり物流経済活動が飛躍的に伸びる。また、福岡・北九州両都市圏までの所要時間が短縮され、雇用機会が拡大し、若者の定住化で人口増が期待される	
・地域活性化促進	市道勝野・長井鶴線(過疎代行事業)は小竹町、の小竹団地と宮若市の主要地方道福岡・直方線を結ぶ広域的な幹線道路であります。トヨタ自動車九州(株)が立地する宮田工業団地と関連する企業の誘致を目的とした小竹団地を直結する道路であるが、いまだ供用開始区間がなく、新たに本年度完成した磯光工業団地の企業誘致の妨げになっている。	宮田工業団地と小竹工業団地を連絡する道路として、交通アクセスの時間短縮が図られるとともに、国道3号線から国道200号線を結ぶ直轄広域循環道路として形成されることにより、企業誘致促進、雇用機会の確保、定住化促進が期待される。	
・地域の住環境整備促進	住宅市街地や農村集落などにおける生活道路について、歩行者の安全確保と生活環境の向上のための整備が遅れている。	日常生活の利便性と安全性を高めるため、住宅市街地などの生活道路の整備を促進することで定住化促進が期待される。	